

# 福島ロータリークラブ通信

## 5月14日(木)通信

皆様いかがお過ごしでしょうか。今週も通信をお届けします。

### 福島ロータリーの歌

先日、東京銀座 RC 会員の方よりお手紙を頂戴いたしました。「貴クラブにはクラブの歌をお持ちのようでどんな歌ですか？」とのお問い合わせでした。クラブの歌が存在している福島 RC は、長い歴史と伝統の象徴だと感じます。このクラブソングを長く歌い繋げていければとの思いから、早速音源をデジタル化し、ホームページに掲載させていただきました。いつでもお聞きになれますので、是非ご覧ください。

### 紺野晴郎会員より寄稿

私たちは東日本大震災を経験し、今年の台風水害、そして今、コロナウイルスによる苦難に必死に立ち向かっている。震災当時を思い出すと私たちが一生懸命努力し社会貢献もしてきたが、神様はなぜこのような試練を私に与えるのか？と、うつ病状態に誰しもなっていたと思う。当時は何をしてよいか分からなかった。必ず遅かれ早かれ死が訪れてくる。コロナウイルスに罹ると今は薬もワクチンも無い。肺炎を起こし重病化して死に至る。怖い。だから今を生きる。どうせ死ぬのだから何をやってもいいとか、自分が罹ってしまったから人を道ずれにとか、私は一人っきりだし夢も希望もないから罹っても平気とか、自分本位を考えずに、震災後も一、二年で正常化した経験を持って、今、人として何をなすべきか考える時だと思う。情報は大事だが、異なる考え方に恐怖を感じる。例えばマスクをしない人がいる。平気で三密をする。理想を放棄しフェイクニュースに惑わされ不安を感じる。マスク、トイレットペーパー、アルコール、小麦粉、パスタ、カップラーメン、レトルト食品。全体が見れないから考え方が偏りすぎる。そして、自分に都合の良い情報のみ信じてしまう。あるいは自分に都合の良い情報を探す。パチンコ屋は消毒しているから安全だ。ロータリーの奉仕は当然に無報酬である。火事場泥棒的な人の弱みにつけこんだ便乗商いや詐欺などをしてはいけない。悪行を許せば戦国乱世に逆戻りしてしまう。無法状態ではなく法治国家たる毅然とした態度が必要。社会問題の解決のために英知と勇気を持つとう。YESかNOではなくグレーゾーンの中に答えがある。不安を打ち消し未来を勝ち取る。平常心をもって慌てずに計画を立てコツコツと。パン屋は客の欲しいパンを作るべきで、パン屋の都合でパンを作るのではない。国民を理解してほしい。コロナウイルスに罹っているか心配だが検査をしてもらえない。今、生活資金が枯渇している。国民全員 10 万円支給なら今年分の所得税基礎控除を 10 万円減額すればよい。アベノマスクがまだ届かない。全ての支援策については申請方法や手続きのハードルが高すぎる。と、一言愚痴を言いたかった。

残りの人生、面舵にしようか、取り舵にしようか、悩むのも楽しみの一つである。10 年前を思い出す。絶望から這い上がってきた。外出自粛、濃厚接触禁止の連休中、自宅で皮算用していました。

## 古俣猛会員より寄稿

【我がふるさと】

私が生まれ育った町、「川俣町」現在人口1万3000人足らずの小さな町です。その昔は絹織物の町として発展してきた町です。明治・大正・昭和の時代には輸出花形商品の羽二重を織り出し、国内で有数の絹織物産地に発展しました。私が小学生の頃までは、町の至る所に絹織物の工場が建ち並び、ガチャン・ガチャン・ガチャンという機織りの音が鳴り響くのを聞きながら、登下校をしたものでした。昔聞いた話ですが、町が全盛の頃を「ガチャ万」と言うのだそうです。少しオーバーですが、ガチャンと1回織ると1万円儲かったという程の時代があったそうです。今現在NHKで放映中の朝の連続テレビ小説エールにおいて、古関裕而さんが川俣銀行に勤められていた頃のことだと思います。その頃の川俣町を描いている放送を何度か観ましたが、正直あまりにも綺麗に描いていただき過ぎて、気恥ずかしい気持ちになりました。あくまでもテレビドラマですので、当然なのでしょう。実は私の家でも現在は建設業ではありますが、当時は劇場なるものも経営していました。映画はもとより、当時の若手歌手、東海林太郎さんや春日八郎さんなど、多くの歌手の皆さんや「梅沢劇団」なども公演に来ていたそうです。梅沢富美男さんは、まだ子供でしたが一座と一緒に出演していたそうです。今現在の川俣町は、織物産業も衰退してしまい、過疎の町としてかなり苦戦を強いられている状況ですが、コスキンエンハポンや川俣シャモなど、町おこしを町民一丸となって頑張っておりますので、この忌々しい「コロナ狂想曲」が終焉となった際には、会員の皆様、是非川俣町にお出かけ下さい。

## Member's Voice

森岡幸江会員

オンライン帰省をしていた娘から連絡があり、グーグルマップで実家を検索すると、そこには家の周辺を散歩している亡父の姿が写っていました。思わぬ再会に懐かしくほっこりした気持ちになりました。自粛の今、行ったつもりで思い出の地を検索すると、思わぬ発見があるかもしれません。4月の理事会では、オンライン理事会についても検討がなされました。「私アナログなんで」などと言っていないで、新しい技術はどんどん習得し、世界を広げていかななくてはと思う昨今です。コロナ後にはどんな社会が待っているのでしょうか。

浦部博会員

### 【気分解放！信夫山】

コロナストレスを解消するためか、信夫山探索をされる方が増えています。みどりのトンネル・烏が崎の展望など、気分爽快になること請け合いです。実は、信夫山は山ではなく、海底時代にマグマの上昇で熱変成し堅く硬化した岩体で、福島盆地の沈降の際、ぽつんと取り残された(残丘)と呼ばれる地形なのです。自然・展望・歴史・信仰・etc、豊かな資産を持つ里山ですよ。

## \*皆様からのお声をお寄せください！

つぶやき程度でも構いません。会報ニコニコBOXメッセージのように、皆様からのお声を掲載したいと考えております。事務局までFAXもしくはメールにてお届けください。FAX: 536-1011 メールアドレス: [f-rotary@guitar.ocn.ne.jp](mailto:f-rotary@guitar.ocn.ne.jp)